



⑧



⑤



⑥



⑦

(安岡町) 鳳龍臺

(福渡町) 龍輦臺

(小性町) 鯨若臺

(二階町) 鶴龍臺

(元魚町) 麒麟臺

(河原町) 桜若

(東新町) 龍鷹臺

(西新町) 龍宝臺

(中之町) 勢龍楼

(勝間田町) 麒麟臺

(古林田) 鳳凰臺

(東松原) 松栄臺

(玉琳) 玉獅子臺

(総社東) 亀甲臺

(宮脇町) 簾珠臺

(戸川町) 群龍臺

(新職人町) 隼臺

(京町) 紅葉臺

(堺町) 東雲臺

(下紺屋町) 龍虎臺

(新魚町) 飛龍臺

(吹屋町) 雙龍臺

(鍛冶町) 錨龍臺

(船頭町) 鱗龍臺

(伏見町) 卷龍臺

(坪井町) 龍珠臺

(西今町) 緞若臺

(茅町) 錦亀臺

※臺の並びは安政の出動順を一部参考にしてます

●津山だんじり保存会館ホームページ  
<http://danjiri-jp.net/>

●津山だんじりデータベース  
(タッチパネル式端末機)  
設置場所 作州城東屋敷(中之町)  
作州民芸館(西今町)

●津山だんじり特別展  
とき 10月31日(出まで)  
ところ 城西浪漫館(田町)

●作州城東屋敷だんじり展示館(中之町)  
龍鷹臺、龍宝臺、勢龍楼、麒麟臺が保管・展示されています

⑥紅葉臺(京町) ⑥東雲臺(堺町)  
⑦龍鷹臺(東新町) ⑧麒麟臺(元魚町)

①飛龍臺(新魚町) ②鳳龍臺(安岡町)  
③鯨若臺(小性町) ④松栄臺(東松原)

**津** 山初代藩主・森忠政が慶長9年(1604)に総鎮守・徳守神社を再興して間もなく始まったとされる祭礼。現在のだんじりにあるものの記録は、寛文7年(1668)から見られ、24町が練り物を出したとあります。血気盛んな祭り人たち。衝突も多く、城下の治安維持のため度々禁止令が出されたようですが、宝永4年(1707)には大隅神社の祭礼にも練り物が出され、以後恒例となりました。

民俗文化財に指定されている津山だんじりのほとんどが造られています。当時の工匠たちが精魂込めて彫り上げた生命力あふれる彫り物と神社・仏閣の建築様式を取り入れた技は見事なもの。彫刻には龍、麒麟、鷹などや神話、伝説を基にしたものが見られ、だんじりの名前の由来にもなっています。

**も** ともとは担いで威勢を競ったかたがて徐々に変化し、大正、昭和初期には台車に乗せて曳く現在の形態が確立されました。

**子** 「神輿太鼓」から発展した現在の津山だんじりが祭りに登場するようになったのは江戸時代後期になってから。現存する最も古い津山だんじりは、宮脇町の簾珠臺で文政3年(1820)に造られました。それから20数年の間に県の重要有形民



だんじりに乗った思い出を子どもたちに

徳守神社まつりだんじり代表  
宮脇町だんじり出動責任者  
金田勸さん(宮脇町)



宮脇町の簾珠臺は最も古い津山だんじりといわれていますが、

実は昭和51年ごろまで、壊れたままで倉庫に置かれていた状態だったのです。ですから、わたし自身は幼いころにだんじりに乗った記憶はないんです。学生の時、町内の子どもたちをだんじりに乗せてやりたい、簾珠臺を復活させようという動きが起こり、町内の方が奔走しました。今年津山まつり(徳守神社)は例年より大きな規模で、17臺のだん

じりが出動します。だんじりは、歴史的には2〜3年おきに出動するものが正式なようですが、宮脇町は今年で6年連続して出動します。世帯数は25世帯と少ないのですが、毎年50人ほどの曳き手が集まります。市外に出た人たちが自分の子どもを連れて戻ってきたり、会社の友人を連れてきたり…。祭りの時はみんなが町内の住民になるのです。祭りは人と人をつないでいくものだ実感します。

子どもたちはだんじりに乗ることを本当に楽しみにしています。うちの町内では、小学6年になるとだんじりの鐘をたたかせてもらって「乗り子」を卒業。そして中学からは曳く側にまわります。

子どもたちにだんじりに乗った思い出を作ってもらえ、祭りの歴史と文化を継承していくことだと考えています。